2025 年 12 月期第 3 四半期決算説明会（2025/10/30 開催）
質疑応答要旨

※当日のご質問および回答に、一部表現の変更や加筆・修正を行っております。

Q：金融ソリューションセグメントと製造ソリューションセグメントの第 3 四半期の受注動向を教えてほしい。
A：金融ソリューションセグメントについては、全体的に好調な状況にあり、複数の受注を獲得できている。上期まで低調だった会計領域においても新規案件が獲得できた。製造ソリューションセグメントでは、自動車業界を中心に PLM や ALM（Application Lifecycle Management）ソフトウェアライセンスの 3 年間の大型契約を複数獲得しており、今後はアドオン開発案件にもつながる見込み。

Q：SAP について、当期は端境期にあると思うが、現在の状況と今後の見通しを教えてほしい。
A：大型案件の収束による影響が大きく、全般的に苦戦している。今後については、戦略の見直しも含め検討していく。

Q：第 4 四半期の計画達成に関する見解を教えてほしい。
A：売上高の達成は高いハードルだが、受注残高は積み上がっており、達成に向け邁進していく。利益については、研究開発費など将来に向けた投資を拡大しているが、ここまで順調に推移しており、売上高に比べると見通しは明るいと考えている。

Q：生成 AI 活用による生産性改善の現状と今後の見通しについて教えてほしい。
A：AI 駆動開発は PoC（概念実証）のレベルを超え、実用化に至っている。今後、生産性向上に大きく寄与すると考えている。外販面においても、電通グループと共同チームを組成し、AI ソリューション開発を積極的に推進している。

Q：SCSKの完全子会社化のニュースがあった。電通総研は親会社のケイパビリティ活用や連携強化などについてどう考えているか。
A：当社と電通グループがシナジーを創出することは、互いの成長のために重要であると双方が認識しているため、戦略を立て、着実に推進している。

COPYRIGHT© DENTSU SOKEN INC.

Q:第 3 四半期末の受注残高に対する当期中の売上計上見込み額と、計画達成に必要な第 4 四半期の期中受注・売上計上額について教えてほしい。

A:第 3 四半期末の受注残高 765 億円のうち、約 4 割の 300 億円程度が第 4 四半期に売上計上できる見込みで、計画達成には、残り約 180 億円の期中受注・売上計上が必要となる。前期第 4 四半期は約 150 億円の期中受注・売上計上があったことから、今期はおおよそ 2 割増の受注が必要となる。ソフトウェアライセンスなど短期間で売上計上が可能な商材を中心に受注を積み上げていきたい。

Q:採用状況が計画比マイナスとなっている要因を教えてほしい。

A:採用人数は計画から若干マイナスで推移しているが、厳選採用を行っているため。応募者数は引き続き高水準にあり、新卒・中途ともに質・人数ともにしっかりと獲得できている。

Q:第 2 四半期に比べて、第 3 四半期の販管費が減っている。業績連動賞与の積み方など、今後の費用の動きについて教えてほしい。

A:第 3 四半期の賞与は下期計画に準じて引き当てており、利益が計画通り進捗すれば、第 4 四半期に特別な動きになることはない。第 2 四半期からの減少は、人件費以外の複数の費用項目の抑制によるものと考えられる。

以上

COPYRIGHT© DENTSU SOKEN INC.